

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告されます。

定点当たり報告数とは、すべての定点医療機関からの報告数を定点数で割った値のことで、言いかえると1医療機関当たりの平均報告数のことです。

厚生労働省・感染症サーベランス事業により、全国約 5,000 のインフルエンザ定点医療機関を受診した患者数が週ごとに把握されています。長崎県のインフルエンザ定点医療機関は、長崎県内に 70 カ所、長崎市保健所管内に 17 カ所存在します。前述のように、定点当たり報告数とは、このうち1つの医療機関が1週間で何人のインフルエンザ患者を診療したか、を表す数字です。したがって、定点当たり報告数が 3 ならば、1つの医療機関で1週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2017-2018 シーズンの総括： 2017-2018 シーズン
は、47 週で流行開始の指標 1 を超え、51 週で注意報レベル（10 以上）となり、第 3 週から警報レベル（30 以上）となりました。第 5 週（1/29-2/4）がピーク（54.33）で、その後、減少して、第 7 週、第 8 週、第 9 週、第 10 週と注意報レベルでしたが、第 11 週で流行レベルとなりました。第 18 週で 1 未満となりましたので、2017-2018 シーズンの流行レベルは第 17 週までで終了しました。

*2017-2018 シーズンの国立感染症研究所の公表は、第 19 週までで終了していましたが、2018-2019 シーズンとして、第 47 週より、国立感染症研究所ホームページでの公表が再開されました。

○2018-2019 シーズンの定点報告： 2018 年第 50 週
（12/10-12/16）の定点当たり報告数は 3.35（患者報告数 16,589）となり、49 週（12/3-12/9）の定点当たり報告数 1.70（患者報告数 8,438）より増加しました。

2018 年 第 49 週の定点当たり報告数が、2018/2019 年シーズンで初めて全国的な流行開始の指標である 1.00 を上回り、メディアでも 流行が始まったことが、報道されました。

都道府県別では北海道（9.59）、愛知県（8.41）、香川県（7.13）、奈

良県（5.20）、三重県（5.04）、大分県（4.55）、鹿児島県（4.26）、福岡県（4.06）、熊本県（3.88）、大阪府（3.84）、兵庫県（3.81）、千葉県（3.79）、富山県（3.77）、新潟県（3.72）、和歌山県（3.59）、神奈川県（3.53）、岐阜県（3.46）、山形県（3.36）の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、直近の5週間（2018年第46週～第50週）では、AH1pdm09、AH3亜型、B型の順となっています。詳細は国立感染症研究所ホームページ

（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-map.html>）を参照して下さい。

○2017-2018シーズンの長崎市、長崎県の定点報告状況（総括）：

長崎市は、2017年47週で流行開始の指標1を超えましたが、2018年14週以降流行レベルの指標1を切りました。その後、16週で0.94と増加し、17週で再び1.18と指標1を超えておりました。長崎県は、42週で1.03と流行開始の指標1を超えましたが、43週は0.9に減少しました。44週以降1を超え、48週、49週、50週で全国1位でしたが、51週2位、52週3位、1週5位、2週7位、3週6位、4週以降は10位以降でした。

長崎市、長崎県ともにインフルエンザの流行開始の指標1を超え、第2週-第7週が「警報レベル（30以上）」、第8週、第9週が「注意報レベル（10以上30未満）」となりましたが、第10週で10未満となりました。長崎市、長崎県ともに「流行レベル（1以上10未満）」が17週までで終了となりました。インフルエンザ定点報告は、26週、27週と長崎市は0になりましたが、28週、29週、30週と再度定点で報告されておりました。

2018年第30週（7/23-7/29）まで長崎市（0.12）、長崎県（0.04）のインフルエンザ報告がありましたが、長崎市は第31週（7/30-8/5）以降定点報告ゼロとなっておりました。第39週（9/24-9/30）、40週でインフルエンザ報告がありました。41週は報告ゼロでしたが、42週、43週はインフルエンザ報告がありました。44週、45週は報告ゼロでしたが、46週（11/12-11/18）、第47週（11/19-11/25）とインフルエンザ報告があり、徐々に増加しておりました。48週はやや減少しましたが、49週0.24、50週3.59と急速に感染頻度が増加しております。50週で流行開始レベルの1を超えました。長崎県は、第31週（7/30-8/5）から第35週（8/27-9/2）まで5週間（8月）定点報告ゼロとなっておりましたが、第36週（9/3-9/9）、37週、38週、39週、40週で、インフルエンザが報告されました。41週は報告ゼロでしたが、42週、43週、44週、45週、46週、47週とインフルエンザ報告があり、頻度が増えてきました。48週はやや減少。49週で流行開始レベルの指標1を超えており

ました。

○2018-2019 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況：

第50週（12/10-12/16）のインフルエンザ報告は、長崎市（3.59）、長崎県（2.2）で、第49週（12/3-12/9）長崎市（0.24）、長崎県（1.21）と比べてともに増加し、長崎市は50週で、長崎県は、49週で流行開始レベルの指標1を超えております。

◎長崎県のインフルエンザ報告が、流行開始レベル1を超え、長崎市もインフルエンザ報告が徐々に増えつつあるようですので、今後より注意が必要と考えます。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。

